プレスリリース

中部学院大学 大学院 / 大学 / 短期大学部
Chubu Gakuin University & College

2011 年 4 月 14 日

報道関係各位

中部学院大学
中部学院大学短期大学部

これからを担う世代が岐阜県内の福祉について学ぶ

「美濃と飛騨のふくし」を開講

初回は高山市社会福祉協議会が震災レポート

中部学院大学・中部学院大学短期大学部は、新年度から、岐阜県内の福祉の現状について学ぶ「美濃と飛騨のふくし」を開講します。この授業のねらいは、美濃・飛騨の地域に対する関心を高め、地域の諸活動から学ぶことで、地域人としての素養を培い、地域社会に貢献する人材の育成をめざすことです。また、これから進む経済や福祉、教育、医療などの職業領域において、地域社会に対する貢献のあり方を模索することです。講義には、本学が連携協定を結んでいる団体、企業からゲスト講師を迎え、それぞれの立場から、地域での実践報告を題材に、ディスカッション形式を基本に進めていきます。（詳細は別紙参照）

記

■ 日　時　　2011 年 4 月 18 日（月）から計 16 回（予定）
　　午後 3 時～同 4 時 30 分（4 時限目）
■ 会　場　　中部学院大学　関キャンパス（関市桐ヶ丘二丁目 1 番地）
■ 対象者　　本学の全学科（大学 4 学部 5 学科、短期大学部 2 学科 1 専攻科）

■ 内　容　　4 月 18 日（月）　高山市社会福祉協議会
　　東日本大震災の支援活動、高山市の報告
　　4 月 25 日（月）　岐阜県社会福祉協議会
　　東日本大震災の支援活動、県内の活動
　　以後、準備中

以上

（本件に関するお問い合わせ先）
中部学院大学地域連携推進センター（担当：宮嶋 同センター副所長/人間福祉学部准教授）TEL:0575-24-2211

「美濃と飛騨のふくし」

岐阜県は、「木の国　山の国」といわれ、自然豊かな県である。また、斉藤道三、織田信長など戦国の武将が活躍し、濃尾平野を中心に豊な経済を生み出す地域でもあった。そして現代、日本の中心に位置し、伝統と新しい文化の中で、210 万人を越える県民が生活を営んでいる。

地域は、学び成長し、仕事を行い、家庭生活をおくるとともに、社会参加をする場でもある。その地域が、安全・安心であり、活力とやすらぎに満ちたものであることが望まれる。そのため地域には、行政機関や企業・商店、学校や病院・福祉施設、住民組織やＮＰＯなどさまざまな組織があり、活動がある。

本学では、これまで地域連携推進センターが中心になって、大学と地域との連携を築き、地域貢献に取り組んできた。大学が持っている教育力や知的財産を、地域社会の安全・安心と発展のために活用できるよう、いろいろな連携事業に取り組んできた。

１）図書館に「郷土の福祉ライブラリー」を設置し、福祉関係の資料と図書の収集保存、提供
２）地域の生涯学習や福祉教育、福祉研修などに講師を派遣し、研究の成果を提供
３）行政機関などが設置した審議会、協議会、委員会等に教員を派遣し、専門的な立場からの計画提案
４）行政が行う調査研究に参画
５）大学に隣接する地域自治会と協働で、地域まつりを実施し。また、地域の高齢者対策などに協力
６）地元商店のホームページの作成支援

これらのように、大学と地域との間で築いてきた協力関係を、学生に開放し、学生たちが地域社会のエネルギーから学び、地域人としての準備を行うとともに、学生たちが持っている感性やアイデアを地域社会のために役立てる方途を導き出すことが、次の段階として求められるようになった。

そこで、今年度新たに大学･短大共通の基礎科目として「美濃と飛騨のふくし」の講義を開講した。この授業は、美濃・飛騨の地域に対する関心を高め、地域の諸活動から学ぶことで、地域人としての素養を養い、地域社会に貢献する人材の育成をめざす。さらに、これから進む経済や福祉、教育、医療などの職業領域において、地域社会に対する貢献のあり方を考えることである。

講義には、本学が連携協定を結んでいる団体、企業からゲスト講師を迎え、それらの地域実践の報告を題材に、ディスカッションを中心に進めていく。その際の、ファシリテーターを飯尾良英教授（短期大学部社会福祉学科長）がつとめる。授業は 16 回を予定。